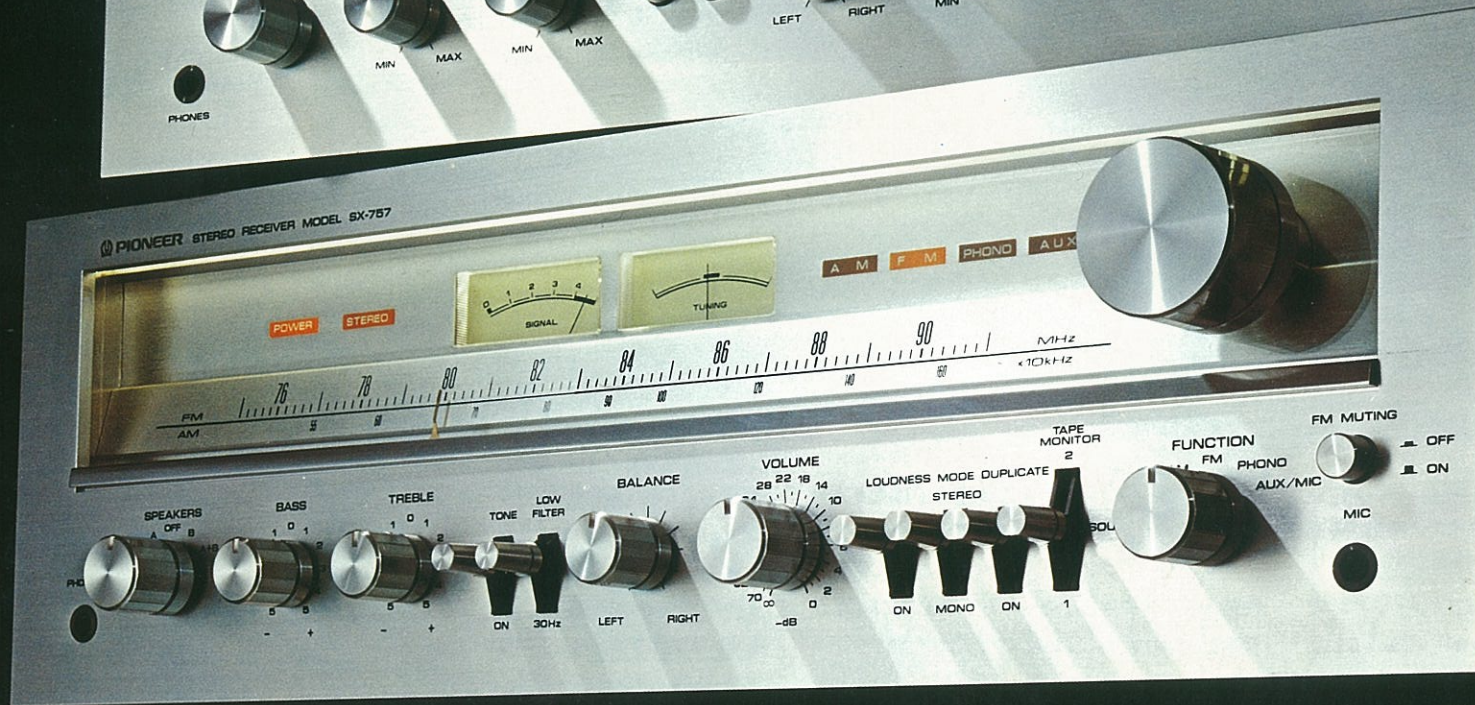


# PIONEER®

ステレオレシーバー

# STEREO RECEIVERS

SX-757  
SX-555



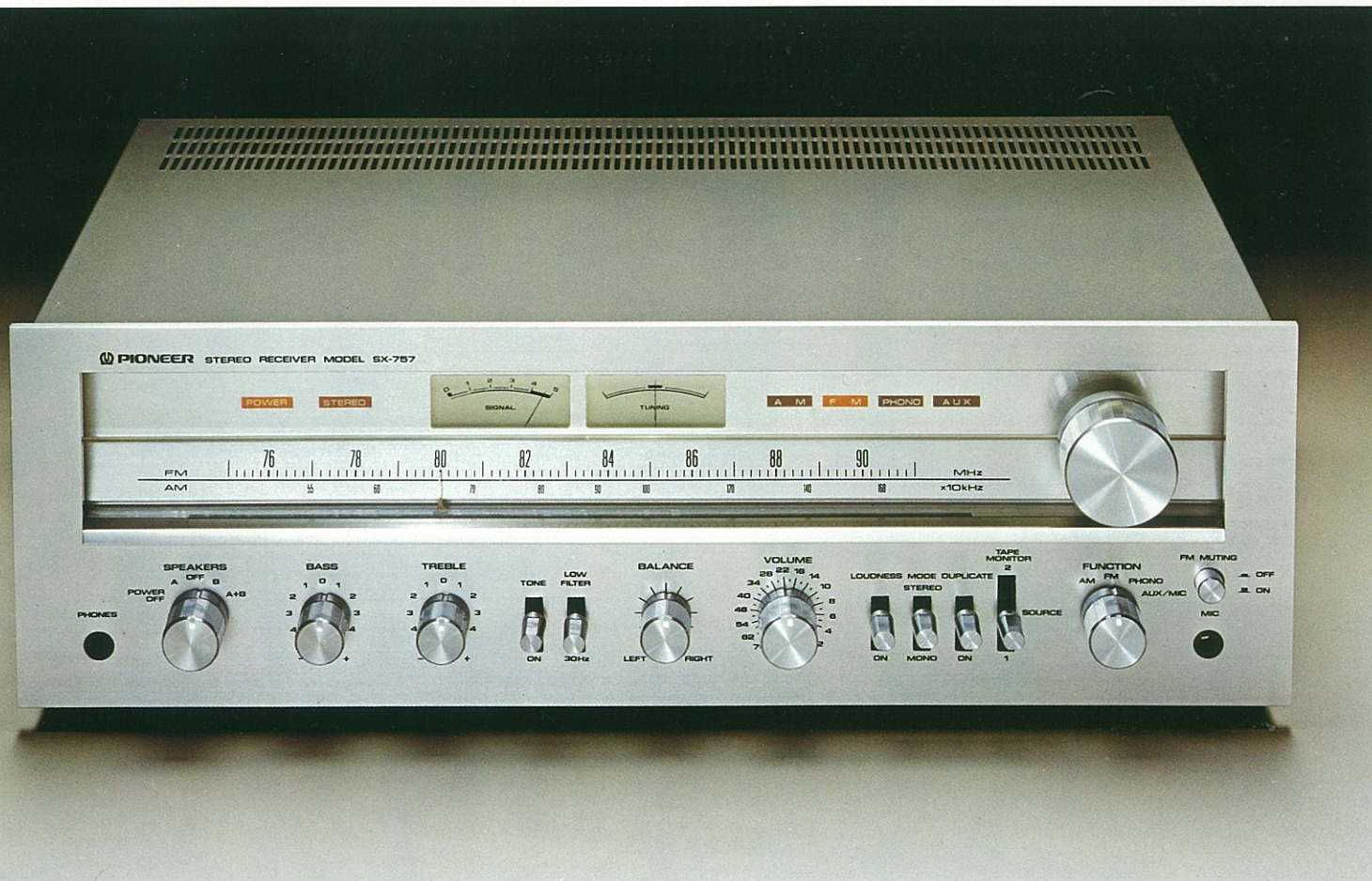


ステレオレシーバー

**SX-757**

¥78,500

# フォノ最大許容入力200mV、RIAA偏差±0.2dB以内、出力50W+50W(20~20,000Hz) 徹底した音質重視設計! 高度なセパレート



プリアンプ部、パワーアンプ部、チューナー部、いずれもハイクラスなセパレートタイプに匹敵する高性能設計が、SX-757の大きな特長です。

従来ややもすると、レシーバーはプリメインアンプや単体チューナーに比べ、性能が一段おとるものと考えられがちでした。しかし、SX-757に関して

は、その考えを改めていただかなくてはなりません。というのも、SX-757の設計方針は、プリアンプ部、パワーアンプ部、チューナー部それぞれの性能を、ハイクラスなセパレートタイプに匹敵させることなのです。しかも、プリアンプ部/チューナー部すべての入出力端子と回路を一枚の大型

基板にまとめ、入力関係のシールド線を廃して音質の向上を図るなど、レシーバーの特長を生かした、たくみな設計で、トータルの音質も十分な高さ。この高性能設計が魅力のSX-757、音楽ファンにもオーディオファンにも、共にご愛用いただける充実度の高いレシーバーです。

## プリアンプ部

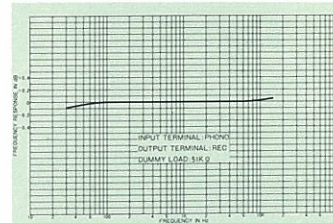
レコードの音質を重視して、イコライザー部はRIAA偏差±0.2dB以内、最大許容入力200mVの高性能を確保しています。

■高性能イコライザー回路



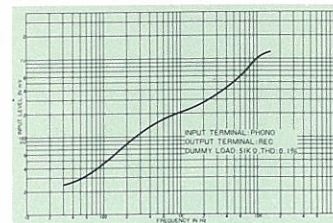
レコードの音質を損わず、その持ち味を十分発揮させるためには、イコライザー部を高性能なものにしないではありません。イコライザー本来の目的は、レコードからの信号を規格通りの値に補正し、フラットな周波数特性にすることですから、まず、規定のRIAA再生カーブに対する偏差が問題になります。そればかりではなく、音の入口で付加された雑音やひずみ、あるいはダイナミックレンジの減少などは、そのま

■SX-757 PHONO イコライザー偏差特性。



まトータルの音質に影響しますから、SN比やひずみ率及び最大許容入力など

■SX-757 PHONO 最大許容入力特性。



も重要です。SX-757のイコライザー部は、±2電源による差動1段



# 両ch駆動・8Ω)、MOS FETと4連バリコンのFMチューナー部。 **アンプ設計技術が生かされています。**

増幅の高耐圧ローノイズICが使われています。そして正確さを要求される素子には、誤差1%以下の金属被膜抵抗や、誤差2%以下のスチロールコンデンサーなど、厳選したものを使用し、RIAA偏差を±0.2dB以内の高精度に仕上げました。

この値なら、ハイクラスなプリアンプに十分匹敵する特性で、不自然な音の色づけがなくレコードに刻まれた信号を忠実に再現します。

また使われているICには、+21V、-19Vの高電圧がかけられ、最大許容入力100mV(1kHz・rms・歪率0.1%)を得て、レコードの大きなダイナミックレンジを十分に再現し、音楽の雄大さを美しく聴かせます。

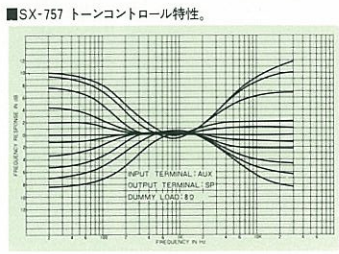
コントロール部もイコライザ部と同様に、ローノイズIC採用で音質を重視した設計。トーンコントロールON-OFFスイッチ付き。

コントロールアンプ部は、イコライザ部と同じローノイズICを使い、低ひずみ率と高出力を得ています。

トーンコントロールは位相特性の素直なCR型回路で、BASS/TREBLE共に11ステップの可変。クリックストップつきですから、つまみを回してもふたたび正確に元の位置に戻すことができます。

このトーンコントロール回路には、トーン回路ON-OFFスイッチを設け

ましたので、OFFにすればつまみの位置に関係なく瞬時



に周波数特性をフラットにすることができます。この場合トーン回路はバイパスされます。

メインボリュームは、正確なdB表示による32ステップの本格的アッテネーター型。

■32ステップのアッテネーター型ボリューム



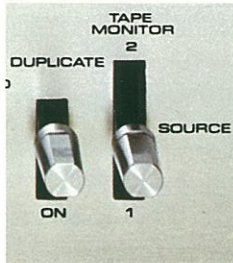
アンプの中で最も使用頻度の高いメインボリュームには、本格的なアッテネーター型を採用

しました。これは正確なdB表示による32ステップのもので、音の減衰量が正しく読み取れ、しかも左右の連動誤差も0~70dBの全域で0.5dB以内。音量の変化によって左右のバランスが変わるといった心配はありません。

もちろん操作のフィーリングは、ハイクラスなプリアンプに見られる快適さ。従来、レーザーには望めなかった贅沢な仕様です。

2系統のテープ入出力回路と、テープ間の複写ができるテープデュプリケートスイッチ付き。

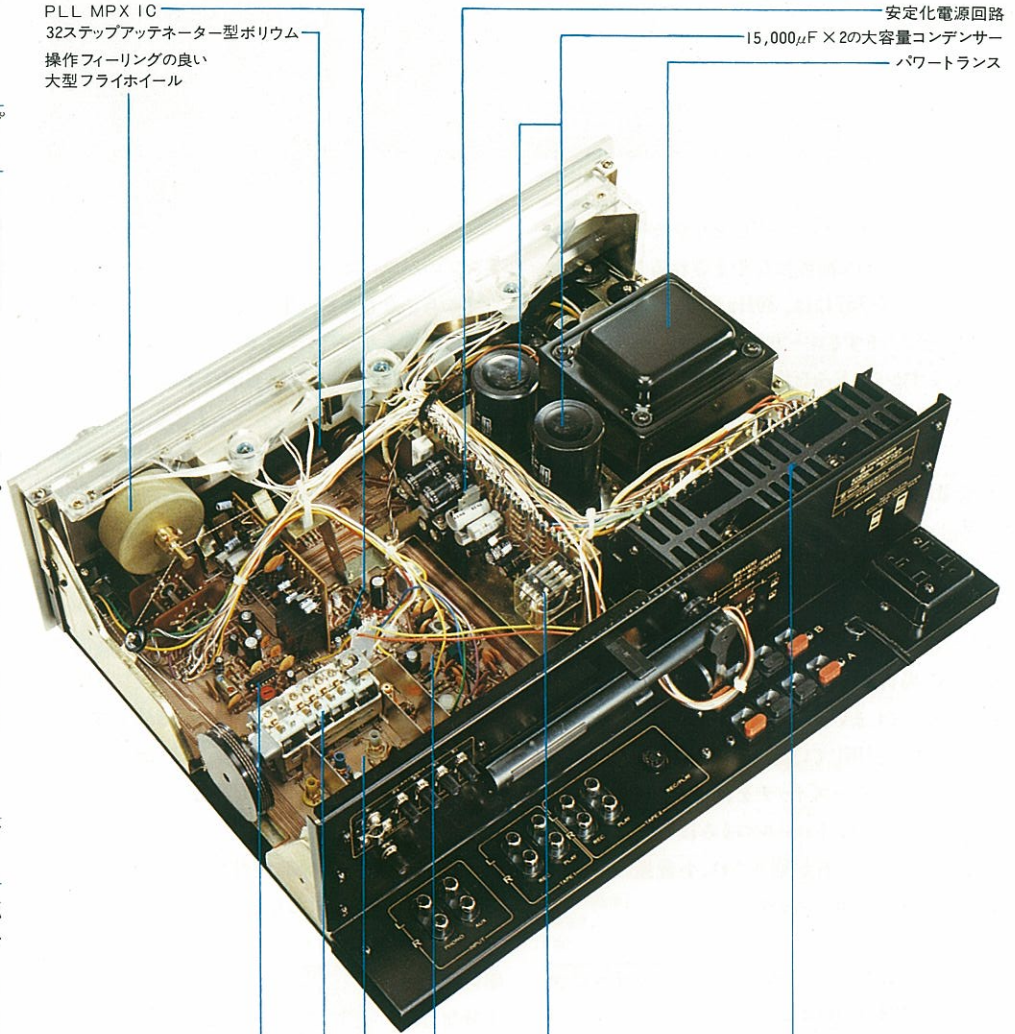
■デュプリケートスイッチ



SX-757には、2系統のテープ入出力回路が用意されていますから、2台のテープデッキを接続して、同時に録音することも可能。もちろん再生の場合には、レバー式テープモニター

PLL MPX IC  
 32ステップアッテネーター型ボリューム  
 操作フィーリングの良い  
 大型フライホイール

安定化電源回路  
 15,000μF × 2の大容量コンデンサー  
 パワートランス



AM部  
 FM4連AM2連バリコン  
 FMフロントエンド

大型放熱器とパワートランジスタ  
 プロテクションリレー  
 FM・IF部



スイッチで、テープ1とテープ2をセレクトすることができます。さらに、接続がえなしで2台のデッキによるテープ複写ができるように、テープデュプリケートスイッチが用意されています。これによって、TAPE 1からTAPE 2へ、あるいはTAPE 2からTAPE 1へ自由に複写することができます。例えばオープンリールデッキで録音したものを編集してカセットデッキに録音しなおす、といったことも手軽に行なえます。

不要な低域雑音などをカットするローカットフィルター付き。

レコード演奏中に、レコードのそりやモーターの振動などによる低域雑音になやまされることなくあります。SX-757には、30Hzから下の超低域成分だけをカットするローカットフィルターが用意されていますから、どんな場合にも音質をほとんど損わずに、雑音成分だけをカットできます。

小音量時の音質を補正する、ラウドネスコンター付き。

人間の耳は、小音量時には低音と高音の感度が低下します。ですから普通のボリューム位置で最適なトーンコントロールをしても、ぐっと音量を絞った聴き方の場合には低音と高音が不足し、迫力のない音になってしまいます。

こんなときに利用していただくため、SX-757では、ラウドネスコンタースイッチを備えました。これによって、トーンコントロールつまみはそのままで、自動的に低音と高音が補正され、小音量再生でも迫力ある音質が楽しめます。

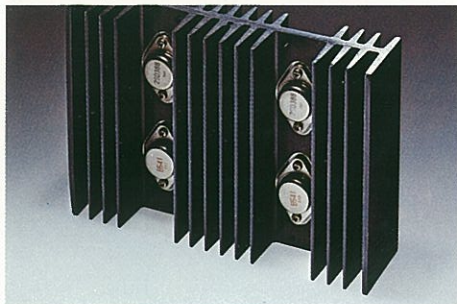
マイクの使用もできるように、フロントパネルにマイクジャックをもうけました。

実用性を重視して、フロントパネルにマイクジャックをもうけました。ファンクションスイッチがAUX/MICの位置にある時、マイクジャックを差し込めばMICが優先されAUXが切れます。

## パワーアンプ部

パワーは50W+50Wの余裕十分な大きさ。しかもひずみを抑えた音質重視の回路設計。

■50W+50Wの余裕を生むパワートランジスターと放熱器



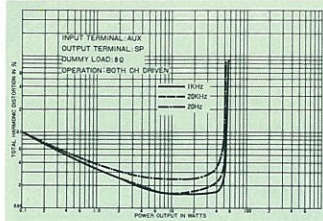
アンプのパワーは、直接スピーカーを駆動する力ですから、迫力ある再生のためには、わずかでもパワーのゆとりが欲しいものです。パワーが不足すると、音楽のピーク時に音がひずみ、音楽の力強さを美しく再現することができません。

SX-757のパワー部は、±2電源方式による差動増幅1段の純コンプリメンタリーOCL回路を採用し、実効出力は50W+50W(20~20,000Hz・両ch駆動・8Ω・歪率0.1%以下)のゆとりあるパワー。この数値は、よくある1kHzだけのパワーやミュージックパワーではなく、20~20,000Hzの全可聴帯域に対し、両ch駆動で得られる実効出力で、実際に音楽を演奏したとき確実に保証される値です。このパワーなら、たとえ感度の低いスピーカーを接続しても、まずパワー不足の心配はなく、音楽の力強さを堂々と再現します。

この回路では、差動部に特性の揃ったデュアルトランジスターを採用するなど、ハイパワーだけでなく

低ひずみ率の点にも十分な力がそそがれています。その結果、実効出力時の

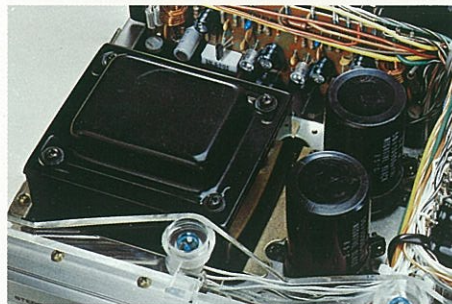
■SX-757出力対高調波歪率特性。



ひずみ率は0.1%以下の低さを実現。ひずみ感のない美しい音質で、微小出力時でもフルパワー時でも、心から音楽を楽しむことができます。

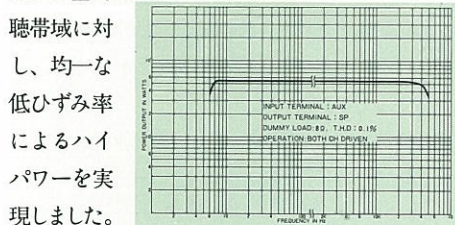
連続大出力にも十分耐える、大容量の電源部もっています。

■15,000μF×2の大容量コンデンサーとパワートランス



大出力のパワー部をより充実したものとするため、電源部には、従来このクラスのレシーバーでは類を見ない、15,000μF×2の大容量コンデンサーを使用しました。これによって、例えば低音の連続大出力時でも十分な電源供給が可能となり、20~20,000

■SX-757出力帯域特性。



A・B2系統のスピーカー接続と、切換えスイッチによるセレクトが可能です。

■A・B2系統のスピーカー切換えスイッチ



のスピーカーを単独で鳴らすことも、同時に鳴らす

スピーカーはA・B2系統の接続ができます。そしてフロントパネルの切換えスイッチは、OFF、A、B、A+Bの4点切換えですから、それぞれの

## チューナー部

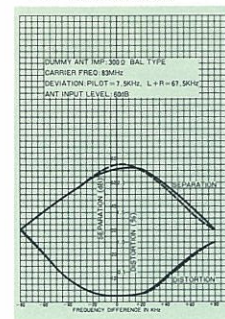
FMフロントエンドはデュアルゲートMOS型FETと4連バリコンを組合せた高精度回路。1.9μVの高感度と高い妨害排除能力を備えています。

チューナーのフロントエンドは、狙った電波を敏感にキャッチする高感度と、不要な妨害波を排除するすぐれた能力が必要です。SX-757のFMフロントエンドは、初段にデュアルゲートMOS型FETを採用した高周波増幅1段と、4連バリコンを組合せた構成。雑音指数の低いFETの採用により、実用感度1.9μVを得ると共に、妨害排除能力はもちろん、イメージ妨害比90dB以上、スプリアス妨害比も90dB以上と、ハイクラスな単体チューナーに匹敵するものです。

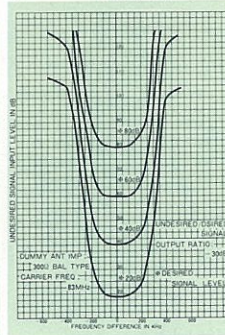
IF部は高SN比、低ひずみ率を重点に、3個のICとセラミックフィルターの組合せ。

IF部は専用の高集積度ICをベースに差動IC2個と、2素子セラミックフィルター3個を組合せ、5段のリミッターをかける回路です。ここでは、混信や雑音を防ぎ美しい音のFM放送を受信するために、隣接する妨害波を防ぐ実効選択度を高くし、受信局と同一周波数の不要波を抑えるキャプチャーレシオの特性向上、さらに十分なリミッターでAM

■SX-757FM離調周波数対セレーション/歪率特性。



■SX-757FM実効選択度特性。









ステレオレシーバー

**SX-555**

¥48,500

# 最大許容入力200mVのイコライザー部、出力20W+20W(20~20,000Hz・両ch駆動・8Ω) 音質重視の設計思想でまとめ上げた回路構成



音質重視の設計思想でまとめられたオーディオ志向。高性能な回路構成によるすぐれた音質が、見のがせない魅力です。

メカニカルですっきりとしたデザインのSX-555。この精緻な美しさどなりに、内部の回路設計も音質重視の思想から十分な検討が加えられ、このクラ

スでは群を抜く高性能を実現しています。これまでレシーバーのメリットといえば、全てがひとつにまとめられたことによる使いやすさだけが強調されていたようです。しかしSX-555では、この使いやすさに加えて、レシーバーならではの長を生かした、大型基板による回路の一体化を

図り、入力関係のシールド線を廃して音質の向上に結びつけるなど、音質重視のための積極的な設計を各所に取り入れました。このようにして、レシーバーの使いやすさとすぐれた音質を両立させたSX-555は、多くの方々にご愛用いただける実用性の高い、魅力あふれるレシーバーです。

## プリアンプ部

大型基板の採用でシールド線を廃しましたから、シールド線の悪影響がなく、美しい高音を再現します。

■大型基板の採用で歪が大幅に改善



上級機SX-757と同様に、レシーバーの特長を生かした大型基板の

採用で、スピーカー回路を除くすべての入出力端子と回路が一体化され、シールド線を廃しました。これによってシールド線の影響による高域劣化がなく、伸びのある透明な高音再生です。

美しいレコード再生のために、RIAA偏差 $\pm 0.3\text{dB}$ 以内、最大許容入力200mVと抜群の性能をもつイコライザー回路。

イコライザー回路の目的は、レコードからの信号を規格通りに補正して、フラットな特性を得ることですから、第一に規定のRIAA再生カーブに対する正確さが要求されます。同時に再生音のダイナミックレンジを決定する最大許容入力やSN比、さらにひずみの問題も当然重視しなくてはなりません。

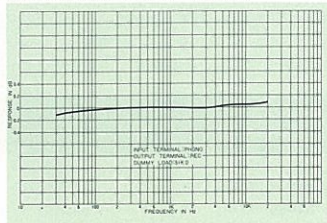
SX-555では、イコライザー部に $\pm 2$ 電源方式による差動増幅1段の、高耐圧ロノイズICを使用しました。この回路によってRIAA偏差は $\pm 0.3\text{dB}$ 以内と、高級なセパレートアンプに匹敵する特性。不自然な音の色づけがなくレコードの音質を忠実に再現します。



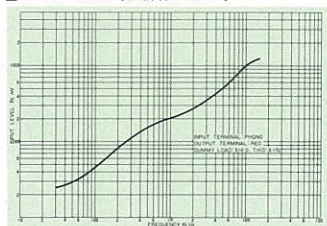
# パワー部、高感度と高い妨害排除能力のチューナー部。 戊! 音質の高さが大きな魅力です。

また最大許容入力も200mV(1kHz・rms・歪率0.1%)と十分な余裕もっていますから、ダイナミックレンジの大きい再生で、音楽のスケール感を十分に盛り上げます。

■SX-555 PHONO イコライザー偏差特性。



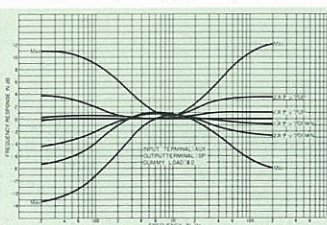
■SX-555 PHONO 最大許容入力特性。



CR型の本格的トーンコントロール回路。コントロールボリュームには、新開発のセンターディファイター型を採用。

ひずみを増加させず、しかもきめ細かなトーンコントロールができるように、コントロールアンプにはローノイズPNP-NPNの2直結アンプを、そしてトーン回路は本格的なCR型としました。トーンコントロールつまみは、BASS/TREBLE共に11点のクリックストップつき、つまみを動かしても再び正確に元のコントロールポジションに戻すことができ

■SX-555 トーンコントロール特性。



ます。このコントロールボリュームは、新開発のセンターディ

ファイター型です。センターのOFFポジションにすると、トーンディファイターと同じようにトーン回路はパスされてうねりのないフラットな特性が得られます。

小音量再生でも迫力ある音質が楽しめる、ラウドネスコンター付き。

人間の耳は、小さな音に対しては低音と高音の感度が低くなります。ですから、普通の音量で最適なトーンコントロールをしても、音量をぐっと絞った聴き方の場合には低音と高音が不足して感じ、迫力のない音質になりがちです。

SX-555では、こんな場合の迫力不足を補うため、ラウドネスコンターを備えています。これによって、トーンコントロールつまみとは無関係に低音と高音が補正され、小音量再生でもバランスの良い迫力ある音質が楽しめます。

2台のテープデッキを接続して同時録音もできるように、2系統のテープ入出力端子付き。

テープ入出力端子は2系統用意されていますから、2台のテープデッキを接続し同時に録音することもテープ1からテープ2へ複写することも可能。そしてテープ再生はモニタースイッチで、テープ1/テープ2を自由にセレクトできます。

オーディオの楽しさを広げる、マイクミキシング回路を内蔵。

SX-555にはマイクミキシング回路が用意されています。ミキシングつまみの操作でマイクロホンの音量が自由にコントロールできますから、レコードや放送とのミキシングも楽しめます。

## パワーアンプ部

パワーアンプ部はひずみを抑えた音質重視の設計で、20W+20Wの余裕ある出力を得ています。

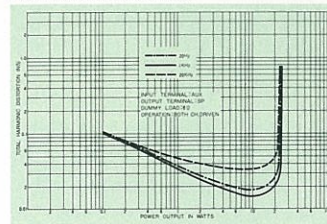
アンプのパワーは、直接スピーカーを駆動する力ですから、音楽の力強さを表現するためには、ゆとりと低ひずみ率が重要です。

SX-555のパワーアンプ部は、±2電源方式で特性の揃ったデュアルトランジスターによる差動1段増幅、純コンプリメンタリーOCL回路です。この本格的な回路によって、実効出力は20W+20W(20~20,000Hz・両ch駆動・8Ω・歪率0.3%以下)の余裕。実効出力時のひずみ成分は0.3%以下の低さに抑えられていますから、力強さと共に音楽の繊細さも美しく再現します。

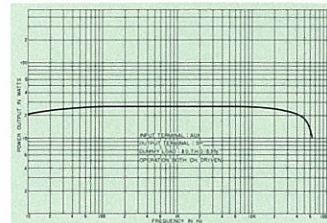
また電源回路は、6,800μF×2の大型コンデンサーが使われ、充実した構成となっています。これによって、例え

低音の連続大出力があっても、十分な電源供給が可能ですから、20W+20Wのパワーを20~20,000Hzの全可聴帯域に対し、安定して実現しています。

■SX-555 出力対高調波歪特性。



■SX-555 出力帯域特性。



スピーカーは、A・B2系統の接続が可能。2系統スピーカーの同時演奏もできます。

スピーカー端子はA・B2系統あり、合計4本の接続が可能ですから、別の部屋にスピーカーだけを置く、といった使い方も楽しめます。そして前面でA・B・A+B・OFFに切換えられますから、それぞれ単独での演奏や2系統同時の演奏ができます。スピーカーOFFのポジションは、ヘッドホンだけで聴くとき便利です。

## チューナー部

チューナー部もレシーバーの特長を生かした回路の一体化でシールド線を廃し、高域の劣化を防いでいます。

SX-555は、レシーバーの特長を生かした大型基板の採用により、入出力端子と回路の一体化が行なわれています。これによりプリアンプ部と同様にチューナー部でもシールド線が廃され、シールド線の影響による高域劣化が防止されています。

FMフロントエンドは、FETと周波数直線型3連バリコンの組合せ。2.0μVの高感度と高い妨害排除能力を備えています。

フロントエンドは、狙った電波だけを敏感にキャッチし、不要な妨害波はいっさい受けつけない精度の高さが重要です。SX-555のフロントエンドは、雑音指数の低いFETと周波数直線型の精密3連バリコンを組合せて、FM実用感度は2.0μVの高さ。例えば電波条件の悪い場所でも安心して使える高感度です。また妨害波の排除能力も高く、スプリアス妨害比75dB、イメージ妨害比も60dBの



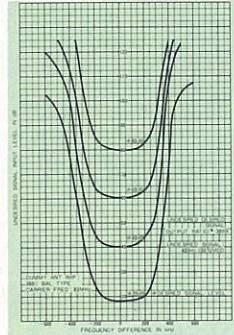
すぐれた性能です。

そして温度や湿度の変化も十分考慮した設計ですから、受信後のドリフトも極力抑えられ、正確な受信が保たれます。

FM-IF部は、すでに定評ある高集積度ICと2段セラミックフィルターで、高い実効選択度を誇っています。

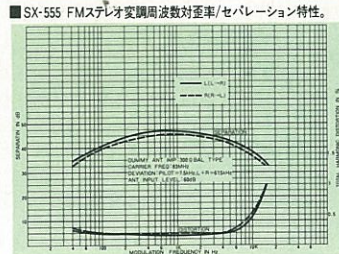
IF部には、すでに定評ある高集積度ICと2段セラミックフィルターを使用。実効選択度は60dBと高く隣接の妨害波を排除すると共に、キャプチャレシオも1.0dBの値で、受信局と同一周波数の妨害波も十分に抑えこみ、混信の悪影響を防ぎます。また5段のリミッターをかけることによってAM成分の雑音も排除し、ステレオ受信時のSN比は67dB以上の高さです。

■SX-555 FM実効選択度特性。



セパレーション特性を決定するMPX部は、専用ICによる定評あるPLL方式です。

美しいステレオのセパレーション特性を実現するため、MPX部は高集積度ICによる、PLL方式を採用しました。温度や湿度



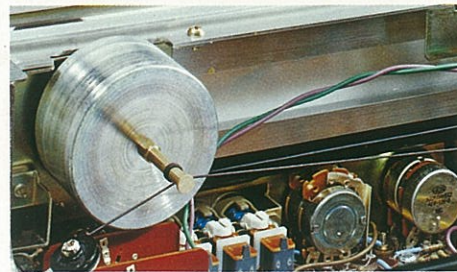
の変化があっても安定したセパレーション特性で美しいステレオ感が楽しめます。

AMセクションにも高集積度ICが使われ、音質重視の回路構成となっています。

AM受信部には高性能な高集積度ICが使われ、ここでも高感度と音質重視の設計がされています。

大型フライホイールつきチューニング機構で、すばらしいフィーリングです。

■慣性効率の高い大型フライホイール



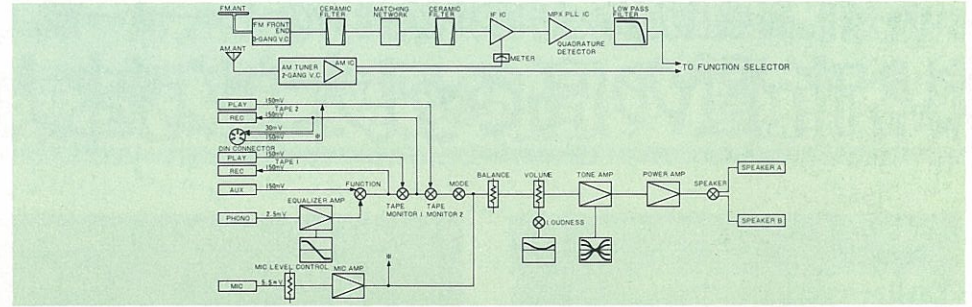
チューニング機構には、慣性効率の高い大型フライホイールを使っていますから、チューニングのフィーリングも実に快適です。



SX-555は前面操作型カセットデッキCT-3とパネル面の高さが同じですから並べてご使用になりますと、機能的な集中操作と、メカニカルに統一されたデザインが楽しめます。

前面操作型カセットデッキ  
**CT-3** ..... ¥49,800

■SX-555 ブロックダイアグラム



## SX-555の規格

### 〔アンプ部〕

回路方式	差動1段全段直結純コンプリメンタリー-OCL
実効出力 (両ch駆動、20Hz~20kHz)	20W+20W(8Ω)20W+20W(4Ω)
実効出力時	0.3%
10W出力時、8Ω	0.07%
1W出力時、8Ω	0.07%
混変調歪率(50Hz:7kHz=4:1)	
実効出力時	0.3%
10W出力時、8Ω	0.07%
1W出力時、8Ω	0.07%
出力帯域幅(IHF、両ch駆動)	5Hz~50kHz(歪率0.3%)
SPEAKER	A・B(4~16Ω)、A+B(8~16Ω)
HEADPHONE	4~16Ω
ダンピングファクター (20Hz~20kHz、8Ω)	25
入力端子(感度/入力インピーダンス)	
PHONO	2.5mV/50kΩ
MIC	5.5mV/50kΩ
TUNER	150mV/50kΩ
AUX	150mV/50kΩ
TAPE PLAY1	150mV/50kΩ
TAPE PLAY2	150mV/50kΩ
TAPE PLAY2(DIN端子)	150mV/50kΩ
PHONO最大許容入力 (高調波歪率0.1%)	200mV(1kHz)
出力端子(レベル/出力インピーダンス)	
TAPE REC1、2	150mV
TAPE REC2(DIN端子)	30mV/80kΩ
周波数特性	
PHONO(RIAA偏差)	30Hz~15kHz±0.3dB
TUNER、AUX、TAPE PLAY	10Hz~60kHz±0.9dB
トーンコントロール	
BASS	±9dB(100Hz)
TREBLE	+11dB、-7dB(10kHz)
ラウドネスコンター (ポリウム-40dB時)	+7dB(100Hz)、+3dB(10kHz)
S/N(IHF、Aネットワーク、ショートサーキット)	
PHONO	70dB
TUNER、AUX、TAPE PLAY	90dB

### 〔FM部〕

実用感度	
S/N50dB	4.5μV(モノ)、50μV(ステレオ)
IHF	2.0μV
S/N	72dB(モノ)、67dB(ステレオ)
高調波歪率	
100Hz	0.15%(モノ)、0.3%(ステレオ)
1kHz	0.15%(モノ)、0.3%(ステレオ)
10kHz	0.3%(モノ)、0.8%(ステレオ)
キャプチャレシオ	1.0dB
実効選択度	60dB(400kHz)
周波数特性	50Hz~10kHz±0.9dB、 20Hz~15kHz±0.9dB
セパレーション	
1kHz	35dB
50Hz~10kHz	30dB
イメージ妨害比	60dB
IF妨害比	90dB
スプリアス妨害比	75dB
AM抑圧比	50dB
キャリアリーク抑圧比	40dB
ステレオ切換レベル(ミューティング動作レベル)	3.0μV
アンテナ	300μV平衡型、75μV不平衡型

### 〔AM部〕

実用感度	
バーアンテナ	300μV/m
IHF	15μV
選択度	35dB
S/N	50dB
イメージ妨害比	40dB
IF妨害比	65dB
〔使用半導体〕	
FET	1
IC	5
トランジスター	27
ダイオード他	22
〔電源部、その他〕	
電源電圧	100V、50/60Hz
消費電力(電気用品取締法)	75W
最大消費電力	170W
ACアウトレット	電源スイッチ連動1、非連動1
外形寸法	430(W)×139(H)×307(D)mm
重量	8.5kg

取扱店

**パイオニア株式会社**

●他の製品のカタログの請求は 〒153 東京都目黒区内パイオニアオーディオ・インフォメーションセンター・カタログ係へ。製品に関するお問合せ、技術相談などは、下記のインフォメーションセンターへ電話でどうぞ。  
・本社(03)491-8181・札幌(011)221-4877・仙台(022)88-5617・東京(03)833-8181・名古屋(0568)73-2121・大阪(06)533-1481・広島(0822)91-8025・福岡(092)441-8076

このカタログに掲載の規格及び外観は改善のため予告なく変更することがあります。